八雲町郷土資料館農機類標本台帳

一般名称: 足踏脱穀機	現地の通称:

資料種別: ◉ 製品−実物 ○ 製品−レプリカ ○ 製品−模型 ○ 製品図面 ○ 写真等 ○ 図書掲載 ○ その他

資料種類:
☒ 人力用具 ☐ 手押式 ☐ 耕耘用 ☐ 調製用
☐ 畜力用具 ☐ 乗用式 ☐ 施肥播種 ☐ 施設類
☐ 原動機具 ☐ 牽引式 ☐ 管理用 ☐ 機素
☐ トラクタ具 ☒ 定置式 ☒ 収穫用 ☐ その他

管理プレートNo.
台帳No. Y151
相手先番号等

統一分類記号

製作者・会社: 興農式 ： 銘板破損して不明確
製造市・国名
製造年_購入年,標本収集年

使用目的・使用方法等

穀物の脱穀。足踏み板を左足で踏むとクランク機構で扱歯を排列した扱胴が回転し、身体右側に稲束などの根元を両手で持って扱胴に押し当てる(上扱ぎ、自脱などは下扱ぎ)と、U字型の扱歯が穂に当たって脱粒する人力脱穀機。脱穀時に籾粒が飛散するため、通常は扱胴上部にカバーが付いて市販されるか、ない時は莚等でカバーをかける。
足踏脱穀機は、1910年に山口県福永章一、翌年に広島県河野駒一が発明したとされ、1912年の大正農業博覧会(東京上野)に出展して注目され、以後続々と改良機種が登場して昭和の初めにかけて全国的に普及したが，今日では動力化したため，ほとんど見られなくなった。

利用経過収集記録意義等

本機は、一般に全長・全幅・全高とも60～70cmで，扱胴幅45cmの1人扱ぎ用であるが，扱胴幅の広い二人扱ぎ機もある。
未調査

仕様書_解説等

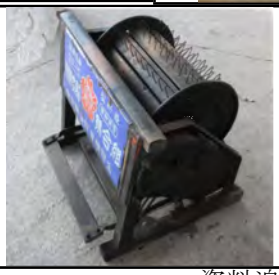
仕様未調査

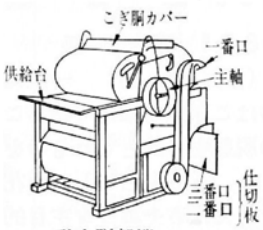
関連図に脱穀機の発達過程を示す。
1：部品名称
2：銘板付市販品
3：動力脱穀機
4：全自動脱穀機（自脱）
この全自動脱穀機とバインダーが合体して自脱コンバインとなった。

右に全体図

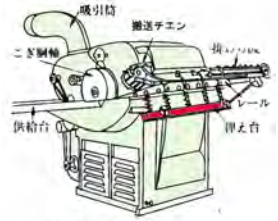
外観特色関連図等

人力脱穀機（人脱）





動力脱穀機



自動脱穀機

資料の所在

資料追記事項

資料管理経過

作業メモ追記文

農業機械学会北海道支部「農機DB作成委員会編